

● 付録 10. 長周期地震動階級関連解説表

長周期地震動階級関連解説表（高層ビルにおける人の体感・行動、室内の状況等との関連）

長周期地震動 階級	人の体感・行動	室内の状況	備 考
階級 1	室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。	ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。	－
階級 2	室内で大きな揺れを感じ、物に掴まりたいと感じる。物につかまらなと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	キャスター付き什器がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。	－
階級 3	立っていることが困難になる。	キャスター付き什器が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が入ることがある。
階級 4	立っていることができず、はわなと動くことができない。揺れにほんろうされる。	キャスター付き什器が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。

長周期地震動階級関連解説表の使用にあたっての留意事項

- （１）長周期地震動階級関連解説表は、周期 1.5 秒程度から周期 8 秒程度までの一般的な高層ビルを対象として、各長周期地震動階級において発生が予想される被害のうち比較的多く見られるものを記述したものです。実際にはこれより大きな被害が発生することや、小さな被害にとどまることがあります。また、それぞれの長周期地震動階級で示されている全ての現象が発生するわけではありません。
- （２）同じ長周期地震動階級であっても、個々の建物や構造物の状態や構造、地震動の周期や継続時間などの性質の違いにより発生する被害は異なります。
- （３）長周期地震動階級関連解説表は、主に近年発生した長周期地震動による被害の事例から作成したものです。今後の被害事例の蓄積に応じて内容を点検し、新たな知見が得られたり、建物・構造物の耐震性の向上等によって実状と合わなくなった場合には内容を更新していくものです。
- （４）長周期地震動階級関連解説表では、被害などの量を概数で表せない場合に、一応の目安として、次の副詞・形容詞を用いています。

用 語	意 味
わずか	数量・程度が非常に少ない。ほんの少し。
大半	半分以上。ほとんどよりは少ない。
ほとんど	全部ではないが、全部に近い。
が（も）ある が（も）いる	量的には多くはなく、その数量・程度の概数の表現が難しいが、当該震度階級に特徴的に現れ始める場合に使用。
多くなる	量的な表現が難しいが、下位の階級より多くなることを表す。